

自然システム学専攻	研究分野	地質学・古生物学	Lab. ID NS21
研究室Webサイト	神谷研究室: http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/Paleontology/ 長谷川研究室: http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/Paleo Lab/index.html ジェンキンス研究室: http://www.paleo-fossil.com/~robert.jenkins/index.html 佐川研究室: http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/~tsagawa/		
研究課題の概要			
<p>地質学・古生物学グループは過去の地球表層環境(地表, 海洋)を地球化学・古生物学的解析により理解することで, 現在そして将来の地球環境の変化を評価したり, 生物や生態系の進化を理解することを目指しています. 4名の教員それぞれが研究室を運営し, それぞれの専門に応じて研究課題を設定しています. 神谷隆宏教授は, 貝形虫を題材とした進化古生物学や生態解析を行っています. 長谷川卓教授は白亜紀, 古第三紀など過去の「温室地球期」の解読を進めています. ジェンキンスロバート助教は化学合成生態系という特殊な生態系の理解を目指しています. 佐川拓也助教は深海掘削試料を用いて主に日本海の環境変遷を解読しています. どの研究室も, 海外でのサンプリングや国際学会への参加の機会が多いです.</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>前期課程学生の多くは卒業研究で培った知識を活かして, 卒業研究課題を継続してより深い議論を目指すことが多いです. プレゼンテーション能力を付けることを重視した指導を行っています. 「研究室ゼミ」と「地質グループゼミ」が週1回ずつ行われ, 前者では個別に踏み込んだ学術的内容を, 後者では専門分野がやや異なる聴衆にも研究内容が理解してもらえるようなプレゼン内容を指導しています. 後期課程学生は, 英語での専門的議論を行う能力を身につけます. 国際学会での発表や海外でのサンプリングなどのアレンジも自ラ行い, 「独立した地球科学者として活動できる」能力を養成します.</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>地質・古生物学グループは同一の学生居室に一人一人が机を持っています. そこで上級生やポスドクからアドバイスをもらいながら和気あいあいの雰囲気の中で研究を進めています. 特に安定同位体比や有機分子分析を行う学生は, 管理を担当するポスドクと分析方法についてしっかりと議論を詰めたうえで分析を行います. フィールドワークが多い分野ですが, これについても先輩たちからのアドバイスは非常に有用です. ゼミでは外部の研究者やグループの名誉教授が参加してくれることも多く, 学会さながらの議論が展開されます.</p>			
教員からのメッセージ			
<p>何気ない「直感的ひらめき」の中に地球を紐解く大事なヒントが隠れています. その「ひらめき」が本物なのかどうか, 最新の知識と装置を使って確かめましょう! 楽しさの中から見つかるものが, 君たちの宝石なのであり, それを手にする君たちは, どの大学を出るよりも輝ける専門家となって羽ばたいていけるでしょう. 楽しいと思って研究することが, 将来, 自分の腕を磨き, 技術を身につけ, 就職に有利となり, 社会に出て身を助け, やがて社会に役に立つことになる(我々が使う手法は, 石油探査会社や環境コンサルタントではとても役に立つ手法ですが, そのことを気にした研究はしません). 私たちは楽しく研究をしたいし, 学生諸君にも楽しく知識をつけ, 楽しく研究をして欲しい.</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2018.3	カナダ太平洋岸の上部白亜系ナナイモ層群の国際対比と古水温解読		
2018.3	化石殻体内アミノ酸の保存性評価: 個別アミノ酸の安定窒素同位体比に基づく古生態系復元に向けて		
2018.3	北海道浦幌町に分布する暁新統から産する沈木依存化石群集 - 植物食モミジソデガイ科腹足類が種多様性に与える影響に着目して-		
2017.3	白亜紀セノマニアン/チューロニアン期境界の南半球高緯度域における環境攪乱: 陸-海の分子化石記録から		
2017.3	熱水性甲殻類 <i>Rimicaris</i> における金属濃縮 - 特に消化管内鉱物粒子に注目して-		
2016.9	Paleothermometry of shallow Japan Sea and its seasonal variation in Early Pleistocene (前期更新世における日本海浅海域の水温季節変動)		
2016.3	オマーン産潮間帯貝形虫群集の研究~生物地理と地史, 生息場の関連について~		
2016.3	泥質堆積物における石灰質ノジュールの形成環境: 古環境記録者としての評価		
2016.3	海生貝形虫 <i>Xestoleberis hanaii</i> の精子変形と受精プロセス		
2016.3	浅海鯨骨生態系の変遷: 九十九湾における水槽および天然環境に設置した鯨骨の時系列観察に基づいて		
2016.3	前期更新世における日本海浅海域の水温季節変動		
2015.3	炭素同位体比の時系列変動に記録される二次的要因の評価: 国際対比の高精度化に向けて		
2014.3	北海道北西部羽幌地域から産出する白亜紀サントニアン期の貝形虫		
2014.3	葉上生貝形虫 <i>Paradoxostoma</i> 亜科の南オーストラリアにおける分布		

2014.3	DNA解析で見る海生貝形虫Paradoxostoma亜科の系統と適応放散
2014.3	陸奥湾の底生有孔虫群集の経年変化
2014.3	炭酸塩ノジュールを用いた海底古水温計の作成に向けて:海底面付近で形成されたノジュールの特徴と選別基準
2013.3	福井県内浦湾における底生有孔虫群集の経年変化
2013.3	海生貝形虫Cythere上科の精子研究ー貝形虫巨大精子の理解に向けてー
2013.3	貝形虫Paradoxostoma亜科の分類・系統・世界的分布ー特に熱帯種の分類・記載を中心にー
2013.3	中期始新世に生じた海洋環境の変革:南大西洋中緯度域の硫酸態硫黄の同位体比層序に基づく考察
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目	
修了年月	タイトル
2017.3	Shallow Marine Ostracod Fauna of the Fiji Archipelago (フィジー諸島の浅海貝形虫群集)
2014.9	Indonesian intertidal ostracodes: Their adaptation to microhabitats and the description of new species (インドネシアの潮間帯貝形虫:生息場への適応と新種の記載)
研究室連絡先メールアドレス	神谷隆宏<tkamiya*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> 長谷川卓<jh7ujr*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> ジェンキンズロバート(R. G. Jenkins) <robertgj*at*staff.kanazawa-u.ac.jp> 佐川拓也<tsagawa*at*staff.kanazawa-u.ac.jp>